



①・②.ライブは、笑いの耐えないトークとアットホームな雰囲気。
 ③.昨年CDリリースした「歩幅」。結婚式や記念日など人生の節目となる日に大切な人へ送る感謝の思いを込めた歌となっている。
 ④.「優しい人柄、何よりも努力家、ギターもうまい」と魅力を語るファンの方。大好き！と満面の笑顔。

一期一会 出会いが見つないでくれた道

人生のターニングポイント

吉本興業株式会社、(現)株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー(以下「よしもと」)に入るきっかけは、シローさんといったんコンビを解散し、再び結成した時、居酒屋でのおもいがけない出会いでした。

「元々松竹のえらいさんだった人がこんなところで何してるの。よしもとにゆーたる」と偶然言ってもらえて」

結成半年後漫才ブームが到来(24歳)。全国ネットにも出演し、世間から「ギター♡と言われる人気者に。」

「死なん限りなんとかなる、一か八

人生のターニングポイント

大きな花火上げよ。既成の概念を打破したる二人でいきついていた頃が懐かしいわ」と当時を思い出します。

「人との出会いに感謝ですわ。なるべくしてなったんやろな」

今は、何か世の中に恩返しがないと募金活動なども積極的に行っています。

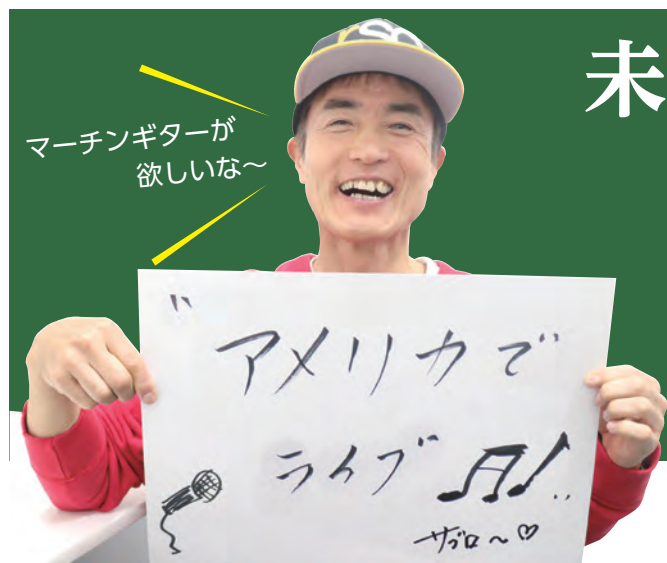
大阪ソングを歌いつなぐ

ギターを弾きたいと思ったのは19歳の時。ずっと弾きたかってん」と話したのが、たまたまギターを集めていた友人でした。ギターあがるよこの偶然に、どこまで人に恵まれているんだろうと感じ、もらった以上はやめられないプレッシャーで、チャレンジしたいいます(56歳)。

トントン拍子に話しが進み、ライブをすることに。2カ月でギターを修得しました。

「何かを得るためには、火中の栗を拾いにいかなあかん。安心してたらろくなことないからな」サブローさんの生き方が垣間見えました。

「オオサカンホットミュージックナイト」では、大阪にちなんだ歌、大阪にちなんだ人の歌をつなぎたい」と、テレビでは聞けない、歌、作品と共に知られざる人柄、秘話トークで会場内はサブローワールドに引き込まれました。



未来へ贈るメッセージ

今後の夢を書きながら「ええ歳して、あほでしょ」と笑顔のサブローさん。

「安定なんて、僕はさぼってしまうからあかんわ。おもんないやん。不安やから頑張る。それが楽しい」何歳になっても夢は持ち続けるもの。「このままでいいと思わず失敗を恐れず、何事にもチャレンジしてほしい」と未来の若者へエールを贈ります。

My dream

チャレンジすることがチャレンジ

テレビなどで活躍中のお笑い芸人大平サブローさん。守口市出身であり、昨年3月にもりぐち夢・未来大使に就任しました。2015年から芸能生活40周年と還暦を記念して音楽活動をスタート。自分自身の過去を振り返りながら、新成人にエールを贈ります。

成功なんてしていない
今の自分があるのは「不安」を持ち続けたこと

Taihei Saburo
大平 サブローさん
お笑い芸人

プロフィール
株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシー所属
1956年2月24日生まれ(61歳)
守口市出身。守口市立南小学校、守口市立第二中学校(現 守口市立樟風中学校)卒業。南小学校「運動会のうた」の作詞は大平サブローさん。当時たまたま書いた歌詞が選ばれ、今も守口の子どもたちに歌われている。太平サブロー・シローのコンビで「上方漫才大賞」をはじめ、数々の賞を受賞。関西テレビ「快傑! えみちゃんねる」をはじめ、テレビ番組・CMに多数出演中。

11月24日なんばにあるYES THEATERで行われた「オオサカンホットミュージックナイト」

もりぐちで育った20年

あかんたれで、お調子モンのいちびり小・中学校では明るいいいじめられっ子だったといいます。

「あほなこと言いながら、人のモノマネして遊んどったな。芸は身を助ける、そんなことを無意識のうちに身に付けていたんやな」とうなずきながら振り返ります。そのような性格もあり高校の時、松竹芸能養成学校に入学。高校卒業後、養成学校に通いながらサラリーマンとなりますが、1年後オイルショックでリストラに。

そんな時、養成学校で仲良かった(故)大平シローさんから「漫才やろかこの一言が大きく人生を変えます(当時19歳)。

初舞台、初漫才にもかかわらず会場を爆笑の渦に。それが認められすぐに松竹芸能でデビューとなります。



リハーサルを終え、サブローヒストリーを語ってくれました。